



「国産材住宅づくりセミナー」のご案内

■開催概要

名 称：国産材住宅づくりセミナー
構 成：1日目 9:30～16:30 講習会
2日目 8:30～18:00（予定）現場研修（バスにて移動）
(どちらか一方のみの参加も可能です)
開催地：東京、仙台、名古屋、岡山、福岡
参加費：無料（会場までの交通費・宿泊費等につきましては参加者のご負担となります）

主 催：国産材住宅普及推進キャンペーン事務局

後 援：林野庁

申込方法：インターネットで申込（定員に達した場合は抽選となります）
<http://www.nihon-kinoie.jp/pro/index.html>

【東京会場】2009年11月26日（木）、27日（金）

【仙台会場】2009年12月10日（木）、11日（金）

【名古屋会場】2010年1月14日（木）、15日（金）

【岡山会場】2010年2月9日（火）、10日（水）

【福岡会場】2010年3月4日（木）、5日（金）

■セミナーの内容

【1日目】講習会

<午前> 木材・材料関係

- 住宅資材としての木材
- 国産材資材の製造・流通・市場・資材選択・入手方法、価格
- 住宅用木材の品質性能、材料規格
- 木材含水率及びヤング率の測定法 など

<午後> 住宅・構造関係

- 木造住宅の工法・構法、材料・構造・防火設計法
- 関連法規と設計基準、耐震工法、構造計算法
- 長期優良住宅仕様、省エネ工法

○材料や施工面から見た不具合の発生と住宅瑕疵 など

【2日目】現場研修（内容は会場によって異なります）

○木材市場の見学

○製材工場、プレカット工場等の工場見学

○住宅建築現場見学

■お問合せ 国産材住宅普及推進キャンペーン事務局
国産材住宅づくりセミナー担当 TEL:03-5282-8073

顧客向けのパンフレット

顧客向けのパンフレット「長持ちする家づくりのすすめ」が完成しました。

A3版一枚半折でA4見開きのカラー・パンフレットです。

「住まいづくりナビセンター（晴海・トリトンスクエア）」に常設配布できるようになりました。

顧客説明用にご活用下さい。



●発行/お問い合わせ

一般社団法人 工務店サポートセンター

〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町12-4 建設国保会館1階

TEL.03-5643-5668 FAX.03-5643-5669

E-mail : jbn@jbn-support.jp homepage : <http://www.jbn-support.jp>

発行人：藤澤好一 ©工務店サポートセンター 禁無断転載

協力：社団法人 全国中小建築工業事業団体連合会

刊行物のご案内

●「木造建築士」資格研修テキスト

JBN工務店サポートセンターでは、木造建築士を再評価し、長期優良（木造）住宅の扱い手の資格として位置づけ、ちきゅう住宅検査員講習をはじめ、各種講習会を通じて取得をよびかけています。ご活用下さい。

工務店サポートセンター編、刊行・本年5月
定価 3,500円（消費税込）、発行・井上書院

お詫び・工務店サポートセンター監修・編「木造住宅・工事管理の実務」が彰国社からこの秋出版の予定でしたが、長期優良住宅対応の補足作業を組み込んだため、明年はじめとなる予定です。

●長期優良住宅マニュアル（I.申請編）

長期優良住宅の適合認定の申請に必要な書類の作成、手続きについてのマニュアルです。

工務店サポートセンター編、刊行・本年5月、A4・210ページ。

●長期優良住宅マニュアル（II.建材編）

長期優良住宅の計画・設計の実務に役立てるための建材データベースです。昨年度の全建連型・先導的モデル事業の実績に基づき、使用頻度の高い建材を中心に構成しています。

工務店サポートセンター編、刊行・本年8月、A4・350ページ。

●長期優良住宅マニュアル（III.住宅履歴情報編）

長期優良住宅として認定された住宅は、住宅履歴情報の作成、保存が義務づけられます。その仕組み、蓄積・活用のあり方、それらを扱う情報サービス機関の事業などを解説したものです。

工務店サポートセンター編、刊行・本年10月、A4・85ページ。

~~~~~

## ■講習会のご案内

### 木造建築士資格受験準備講座

- ・1月21日（木）
- ・2月25日（木）
- ・3月18日（木）

いずれも9:30～17:30（昼休み12:30～13:30）

受験に備えて、学科4科目（計画・法規・構造・施工）の学習の取組みと手続きなどのガイダンス的講習。  
講師はテキストの執筆者、黒田早苗、大川原重男、佐久間順三の三氏が懇切丁寧に教えます。

### 各種講習会のお申し込み

工務店サポートセンターHP→<http://www.jbn-support.jp>  
トピックス/研修・講習会の案内をご覧の上お申し込み下さい。

### 募集中

#### ニュース・ご意見募集

「工務店サポートセンターレポート」では、会員の皆様からの情報を広く募集しています。より良い紙面づくりにご協力下さい。

#### JBN登録会員募集

全国の工務店の皆様の力を結集するためにスタートしたのがJBN（全建連の工務店ネットワーク）です。地域から必要とされ信頼される工務店として、パワーアップを図りませんか？工務店サポートセンターでは、「地域の工務店」を支援します。

## 第5号発刊にあたって

10月、11月にかけて全建連京都大会、ジャパンホームショー2009などの大きな行事が続き、その準備などに追われました。また、本年度第2回の先導的モデル事業が新築・既存改修両部門ともに採択となり、その対応でも忙しくなりそうです。いっそうのサポート体制の整備、充実に向けてセンター一同気合いを入れるとともに、本レポートの前月発行、発送に努力いたします。（F）

# 工務店サポートセンター レポート



- 「長期優良住宅」特集
- 活動報告「ジャパンホームショー2009」
- 運営幹事会・委員会報告
- 会員団体の紹介「熊本県住宅産業協会」
- お知らせ

2009  
December  
No.5

発行人：藤澤好一  
©工務店サポートセンター  
禁無断転載

12  
月号

出たほどでした。地域工務店は長期優良住宅をチャンスと捉え、積極的に取り組むことが重要。そのために工務店サポートセンターを大いに活用しよう、と訴えました。



## 採択を受け、新しい案内パンフレット 「ちきゅう住宅長期優良国産材モデル」発行

基本的コンセプトは昨年同様「日本の木で、日本の技で、日本の家」ですが、これに「環境に配慮した住宅」を新しい考え方として加えました。「CASBEEすまい（戸建）」の評価を導入するというものです。

今回の「全建連・地域木造優良（ちきゅう）住宅先導システム国産材モデル09提案」

### ●住宅の新築（戸建）部門

「全建連・地域木造優良（ちきゅう）住宅先導システム国産材モデル09提案」

### ●既存住宅等の改修部門

「全建連・ちきゅう住宅既存改修システム先導モデル事業」

今回の公募期間は7月15日から8月25日で、応募総数は190件でした。このうち住宅の新築部門が131件と大勢を占め、既存住宅の改修部門は22件でした。

これらの提案は、独立行政法人建築研究所に設置された評価委員会によって評価され、先導的モデル事業として適切と判断された38件が採択されました。

その内訳は新築戸建てが24件（うち、木造等循環型社会形成分野が14件）、既存住宅の改修が8件、維持管理・流通システムが6件でした。

なお、棟数の配分など詳細の通知はこれからとなります。

工務店サポートセンターとして、会員への配分方針、エンタリーの受付、交付申請などの詳細は決定次第、ホームページでお知らせいたします。（F）

## 「地域工務店のこれから」青木会長が講演

ジャパンホームショー2009・講演会で

11月12日（木）15:40～ホール内の特設会場は約100席の椅子がセットされていましたが満席で立って耳を傾ける聴衆も

### 木のまち・木のいえリレーフォーラム イン 東京 「どこで、だれが、どう育てるか、 長期優良木造住宅の扱い手」

長い手育成14年の東京建築カレッジが立場を超えて公開講座の場で徹底討論します。  
日 時：平成21年12月12日（土）14:00～17:00（13:00開場）  
会 場：芝浦工業大学・芝浦キャンパス・8階大講義室  
定 員：250名（申込み先着受付）  
参加費：無料

抱負にかかれて 現状の訴え  
東京土建一般労働組合  
中央執行委員長  
巻田幸正  
全国建設労働組合総連合  
書記長  
古市良洋  
(社)全国中小建築工事業団体連合会（全建連）会長  
青木宏之

バネラ  
・なぜ抱負が減り続けるのか  
中野栄吉（番匠塾塾長）  
・なぜ地域の木材が使えないのか  
安藤直人（東京大学教授）  
・どんな抱負が望ましいのか  
加来照彦（現代計画取締役）  
・どうすれば頼もしい抱負が育つのか  
蟹澤宏剛（芝浦工業大学教授）

●まとめに代えて 行政施策として  
林野庁木材産業課 課長 鈴木信哉  
国土交通省木造住宅振興室 室長 越海興一

主催 職業能力開発短期大学校・東京建築カレッジ（公開講座）  
共催 木を活かす建築推進協議会  
東京土建技術研修センター  
後援 國土交通省、林野庁、全建連、全建連



### ●バネル・ディスカッション

「どこで、だれが、どう育てるか、長期優良木造住宅の扱い手」

コーディネーター・藤澤好一  
(東京建築カレッジ校長・芝浦工業大学名誉教授)

### 一般社団法人 工務店サポートセンター

〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町12-4 建設国保会館1階

TEL.03-5643-5668 FAX.03-5643-5669

E-mail : [jbn@jbn-support.jp](mailto:jbn@jbn-support.jp) homepage : <http://www.jbn-support.jp>

発行人：藤澤好一 ©工務店サポートセンター 禁無断転載

協力：社団法人 全国中小建築工事業団体連合会

### NON-VOC

PRINTED WITH SOY INK

Waterless Printing. Naturally

P-B1000



GREEN PRINTING JPN

FSC

ミックス品

日本森林資源リサイクル委員会  
認定森林由来の紙を使用して印刷しています  
www.fsc.org Cert no. SGS-COC-004118  
© 1996 Forest Stewardship Council

## 活動報告「ジャパンホームショー2009」

11月11日(水)~13日(金)

東京ビッグサイト東ホールで開催されました。

わが国最大規模の住宅・建築専門展示会で、今回は31回目になります。今年のテーマ「低炭素社会の実現に向けて」を反映して、環境、省エネ、エコ、木材、とりわけ国産材、地域産材の出展が目立ちました。

工務店サポートセンターのブースは、出展者の中でも最大規模の展示となりました。昨年より一回り大きい28コマを使い、長期優良住宅を中心テーマにJBN工務店と工務店サポートセンターの存在をアピールしました。

工務店サポートセンターに立ち寄った来場者は3日間で約7千人、回収したアンケート約2千でした。会場内で配布したJBNの手さげ袋を持つ来場客が目立ちました。

その主な内容を写真で紹介します。



工務店サポートセンターは工務店サポートセンターのブースが占めました。



工務店サポートセンター案内コーナー JBN入会案内をはじめ、長期優良住宅の紹介パンフレットを置き、入会を勧めました。

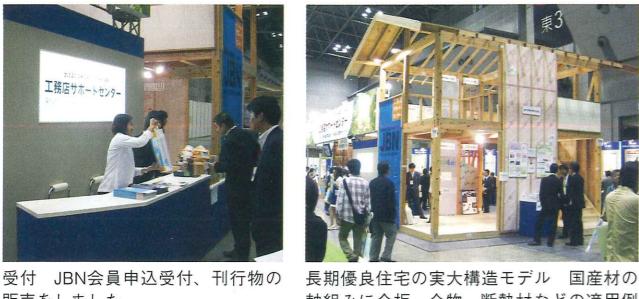


会場で配ったJBN手さげ袋

### 第3回JBN工務店全国大会の開催 11月12日(木)

ジャパンホームショーの会期にあわせて開催されました。

会場はジャパンホームショー展示会場と同じ東ホール2階の「ル・パルク」。全国各地からのJBN会員が約130名が参加、来賓の国土交通省、林野庁、住宅性能保証機構、住宅金融支援機構、日本住宅・木材技術センター、住宅生産振興財団、ベターリビング、建材試験センター、住宅リフォーム・紛争処理支援センター、日本建築住宅センター、日本建築防災協会、全木連、木青連、木を活かす建築推進協議会などの関係者とも交流を深めました。



受付 JBN会員申込受付、刊行物の販売をしました。



長期優良住宅の実大構造モデル 国産材の軸組みに合板、金物、断熱材などの適用例を展示しました。



長期優良住宅の要素技術の紹介コーナー 地盤、基礎コンクリート、土台、設備配管などをメーカー各社の協力で展示、説明しました。



住宅履歴情報コーナー Web接続により消費者用、工務店用のモニターにより「JBN住宅履歴情報管理サービス」の内容を具体的に説明しました。

### 第24回全建連京都大会の開催 10月15日(木)

ウェスティン都ホテル京都を会場に「工務店の未来を担う全建連」をテーマに開催され、盛会裏のうち高らかに大会宣言を行いました。採択されたスローガンは

- ・ちきゅう住宅で住宅瑕疵担保履行法の完全対応
- ・技能の継承と後継者育成が次世代を切り開く
- ・時代は工務店!国産材の活用で築く長期優良住宅
- ・木の文化と伝統の技で実現する豊かな住生活

アトラクションの優雅な祇園囃子、その背景としてこれらスローガンが精彩を放っていました。



セミナーコーナー 長期優良住宅関連の30分セミナーを10人近くの専門担当者がレクチャーしました。テーマが先導的モデル2009事業の概要、環境配慮、住宅履歴情報と管理システム、木造耐震構造、基礎コンクリート管理、長期優良対応の建材選定など。来場者が立ち寄り、椅子が足りなくなるほど講座もありました。

フォトギャラリー ブースに隣接したラウンジに昨年度の先導的モデル事業の完成建物をパネル展示しました。

## 運営幹事会・委員会報告

### 一般社団法人工務店サポートセンター・運営幹事会

10月27日(火)に開催された社員総会で下記のとおり選任されました。

|        |                   |
|--------|-------------------|
| 理事長    | 青木宏之              |
| 理事     | 河井英勝 事業委員長        |
| 理事     | 藤澤好一 工務店サポートセンター長 |
| 相談役    | 中野栄吉              |
| 運営副幹事長 | 長森延久 研究・教育部門担当    |
| 運営副幹事長 | 後関和之 財務部門担当       |
| 運営副幹事長 | 和田正光 組織・組織拡大部門担当  |
| 運営幹事   | 松井 進 次世代・環境・省エネ担当 |
| 運営幹事   | 山田一元 組織拡大・増改築担当   |
| 運営幹事   | 山田貴敏 国産材利用拡大担当    |

### 委員会報告

#### 環境委員会

##### ●第3回委員会 10月20日(火)

北海道から九州まで12名の委員が出席した。参加の各委員からCASBEE、自立循環、事業主基準評価などのとりくみについて報告し、討議が行われた。

自立循環を使用すればコストに関しての説明が顧客にしやすいとの声も多かったが、その一方で事業主基準、CASBEEは顧客への説明がなかなか難しく、提案に利用されるケースは少なかった。

その後、(独)建築研究所 澤地孝男グループ長より「自立循環型住宅ガイドラインの概要」についての講演が行われた。採算のとれない省エネ技術は持続可能な発展とならないため、省エネ効果を見積もることは、ランニングコストを考慮することにつながり、非常に重要であると強調された。

次回・1月13日(水) 15:00~18:00  
於・工務店サポートセンター

#### 増改築委員会

##### ●委員会 10月30日(金)

メンバーを増強し、新しい体制となった委員会が玉置敏子委員長の召集で開催された。青木理事長、藤澤センター長も参加し、長期優良住宅先導的モデル事業・既存住宅等の改修部門への対応などについて協議した。

また、ジャパンホームショーに急遽出展することになった改修実大モデルについて案を検討し、その後制作にとりかかった。(F)



#### 次世代委員会

##### ●委員会(京都) 10月15日(木)・16日(金)

全建連京都大会にあわせて開催した。

日本の建築にとって京都の寺社は極めて大きな存在だが、じっくり訪れる機会がないためこの機会に会場近くの知恩院と青蓮院を見学した。日本の伝統文化を見ることは不可欠とあらためて痛感する。

翌日は、明治20年から京都の国宝や重要文化財の修復を手がけている奥谷組を訪問。奥谷組が修復を行った寺社などの模型を展示してある展示室で、千田社長から熱のこもった丁寧な説明を受け、買い付けた丸太が山のように積んである下小屋なども案内していただいた。

その後、「よしやまち町屋」(京都府建築工業共同組合)を見学。京都の町屋の伝統を残しつつ、住まい心地も追及する改修提案に取り組んでいたり、専門学校を設置して若者に京都町屋の文化と大工技術の伝承を行っている。



行っている。

京都の伝統の民家から国宝の建築まで、幅広く京都建築を堪能でき、充実した研修となつた。(鈴木晴之)

##### ●セミナー&相談会 11月7日(土)

次世代委員会主催・住まいのセミナー「長く住み続けられる家とは」

晴海トリトンスクエア・住まいづくりナビセンターで「次世代の工務店がつくる長期優良住宅」をテーマに行われた。国土交通省から木造振興室越海室を招き、長期優良住宅と工務店の家作りの意義についてレクチャーを受けた。注文住宅を作る難しさ、特に価格設定という点に着目して車やりんごなど値段の分かるものと、注文住宅という値段が分からないものとを比較したときに、施主が勉強をして、家作りに臨むプロセスの価値の重み、大切さなどを述べられた。

パネル・ディスカッションでは次世代委員会メンバーがパネラーとして登壇。住まいづくりへの姿勢、会社の説明などを伝えた。パネラーの熱き思いが伝わり、相談会では何組かが熱心に質問し、丁寧に応える様子が見られた。

終了後の反省会では、告知の方法から構成、運営と様々な課題がでた。初めての試みだったが、今後も継続して行うことを見た。(青木)



### 会員団体の紹介 熊本県住宅産業協会

#### 県内で高い市場占有率

全建連の会員団体は70を数えるまでになりました。その名称は組合から研究会、協会、ネットワークまでさまざまですが、ここは熊本県住宅産業協会です。名は体を表すといいますが、そのとおりでメンバーが県内の住宅市場に占めるシェアは抜きん出で高いのです。会員数は15社と少ないのですが、年間100棟以上の新築住宅を建設する企業を数えると5指では足りないというほどです。県内有数の主要住宅企業(地域工務店)で構成されており、結束力も強く、地域市場をしっかりと抑えているため、県外から大手が参入しようとしても難しいという状況を長い間持続できているということです。

地域の市場は、地域の企業がしっかり守る。そのためには、お互いを尊重し、情報交流を密にし、協力しあう組織としようということで発足したのが昭和59年。発足当初は地域住宅推進協議会でしたが、その後、熊本県木造協会を経て、現在の名称となりました。全建連への加盟は平成10年、全国組織との交流も重要だという判断からでした。

県の住宅行政との連携をはかるとともに良好な協力関係を築き、県内住宅の質向上に努力してきたことも発展につながりました。

平成16年には、同じメンバーで熊本県住宅リフォーム協会を設立しています。そのホームページには「常に最新の情報に基づいた技術を研鑽し、取り入れながら安全・安心・信頼をモットーに熊本の気候風土に適したリフォームを提供する優良企業の団体です」とかかれています。

これも行政からの要請で、悪質リフォーム業者対策の一環としてでした。そのためには業界としての裾野を広げることを視野に、適格業者の育成、定着がこれからのテーマだということでした。

この組織の発展に貢献しているのが事務局の存在です。ここから発信される情報媒体「ハウジング情報」、「リフォーム達人集」などが、地域のユーザーから信頼される情報源となっているのです。(F)

